

市政アンケートの実施

1 概要

(1) 市政アンケートについて

本市の施策についての課題・要望を把握し、これらを施策に反映させるため、無作為抽出した市民 2,000 人を対象にいくつかのテーマについての市政アンケートを実施している。

(2) 市政アンケートの実施状況

調査期間：平成 29 年 7 月 4 日から平成 29 年 7 月 18 日まで

調査方法：市内に居住する満 18 歳以上の市民 2,000 人に対して郵送で実施

回答人数：867 人（回答率 43.4%）

質問数：障害者差別解消に関しては 9 問（その他施策含め全 37 問を設定）

2 「障害者差別解消について」（問 22～問 30）のアンケート結果の概要

(1) 障害者差別解消法を知っていた人は約 4 割（問 22）

障害者差別解消法を知っていたかたずねたところ、「名前も内容も知っていた」と答えた人は 13.8%、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らなかった」と答えた人は 26.0%で、あわせて 39.8%だった。「知らなかった」と答えた人は 56.7%だった。

(2) 障害のある人に対応する機会がある人は 5 割以上（問 25）

仕事や日常の生活において障害のある人に対応する機会があるかたずねたところ、「毎日ある」と答えた人は 13.8%、「しばしばある」と答えた人は 15.2%、「たまにある」と答えた人は 24.9%で、あわせて 53.9%だった。「ほとんどない・わからない」と答えた人は 43.0%だった。

(3) 障害のある人に対応する機会がある人のうち、障害者差別があることを感じる人は 6 割以上（問 26）

障害のある人に対応する機会がある人に、現在の障害者差別の状況についてどのように感じているかたずねたところ、「差別があることをいつも感じる」と答えた人は 6.0%、「差別があることをしばしば感じる」と答えた人は 22.2%、「差別があることをたまに感じる」と答えた人は 37.0%で、あわせて 65.2%だった。「差別があることをほとんど感じない」と答えた人は 22.4%だった。

(4) 障害のある人に適切な対応ができるようにするための必要な情報は、「さまざまな場面において差別となりうる具体的な例」が約 6 割（問 28）

誰もが障害のある人に適切な対応ができるようにするための必要な情報をたずねたところ、「さまざまな場面において差別となりうる具体的な例」と答えた人が 57.2%と最も多く、次いで「それぞれの障害の種別ごとの詳しい特性（障害そのものの特有の性質）」54.6%、「障害を理由に差別を受けた人による体験談」34.6%、「差別解消に取り組んでいる団体等が行っている実例」30.2%の順となった。

(5) 名古屋市が障害者差別解消の推進のために特に力をいれるべきと思うことは、「子どものころから障害のある人とない人が一緒に学ぶ教育環境」など3つの項目で4割以上(問29)

名古屋市が障害者差別解消の推進のために特に力をいれるべきと思うことをたずねたところ、「子どものころから障害のある人とない人が一緒に学ぶ教育環境」と答えた人が44.9%、「障害のある人が利用しやすいサービス」が44.5%、「公共建築物・道路・公園・公共交通機関のバリアフリー化」が44.1%だった。

※障害者差別解消に関する調査結果の全体は、別紙のとおりです。

④ 障害者差別解消について

名古屋市では、障害のある人もない人もお互いに人格と個性を尊重し合いながら共に生きる地域社会を目指し、障害者差別の解消に向けた取り組みを行っています。今回の調査では、市民の皆さまに、障害者差別解消に対する現状認識や考え方などをおたずねし、今後の取り組みの参考とさせていただきます。

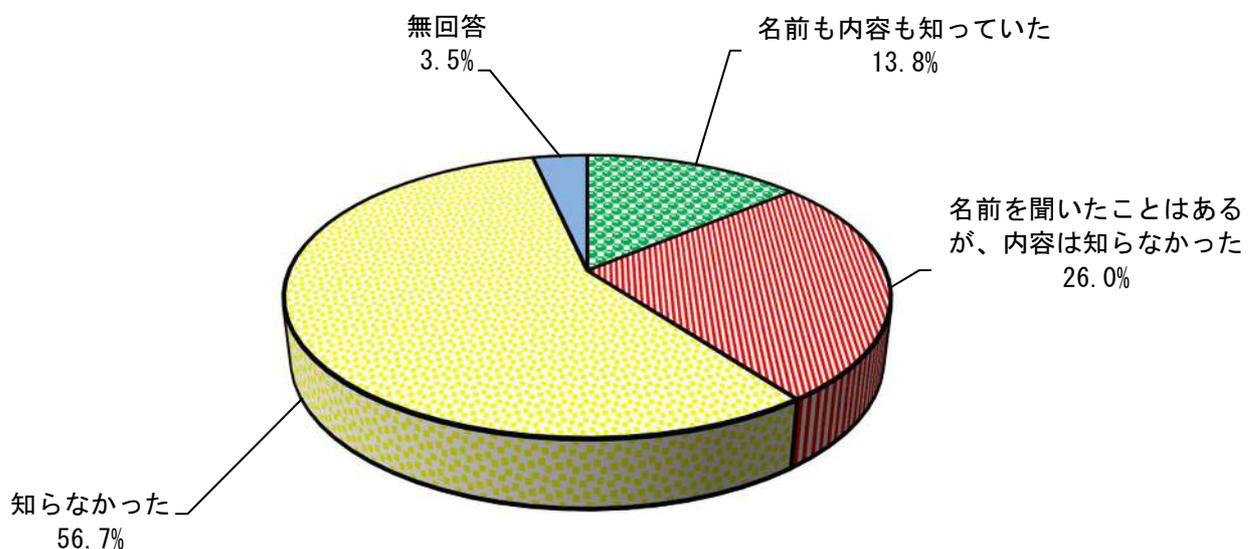
障害者差別解消法

平成28年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）が施行されました。この法律では、障害のある人への差別をなくすことで、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指しています。

障害があることで、障害がない人たちと不当に違う扱いをすることや、申し出に対して過大な負担がないにもかかわらずその人の障害に合った必要な工夫ややり方を行わないことが差別になります。

問22 あなたは、障害者差別解消法について、知っていましたか。（○は1つだけ）

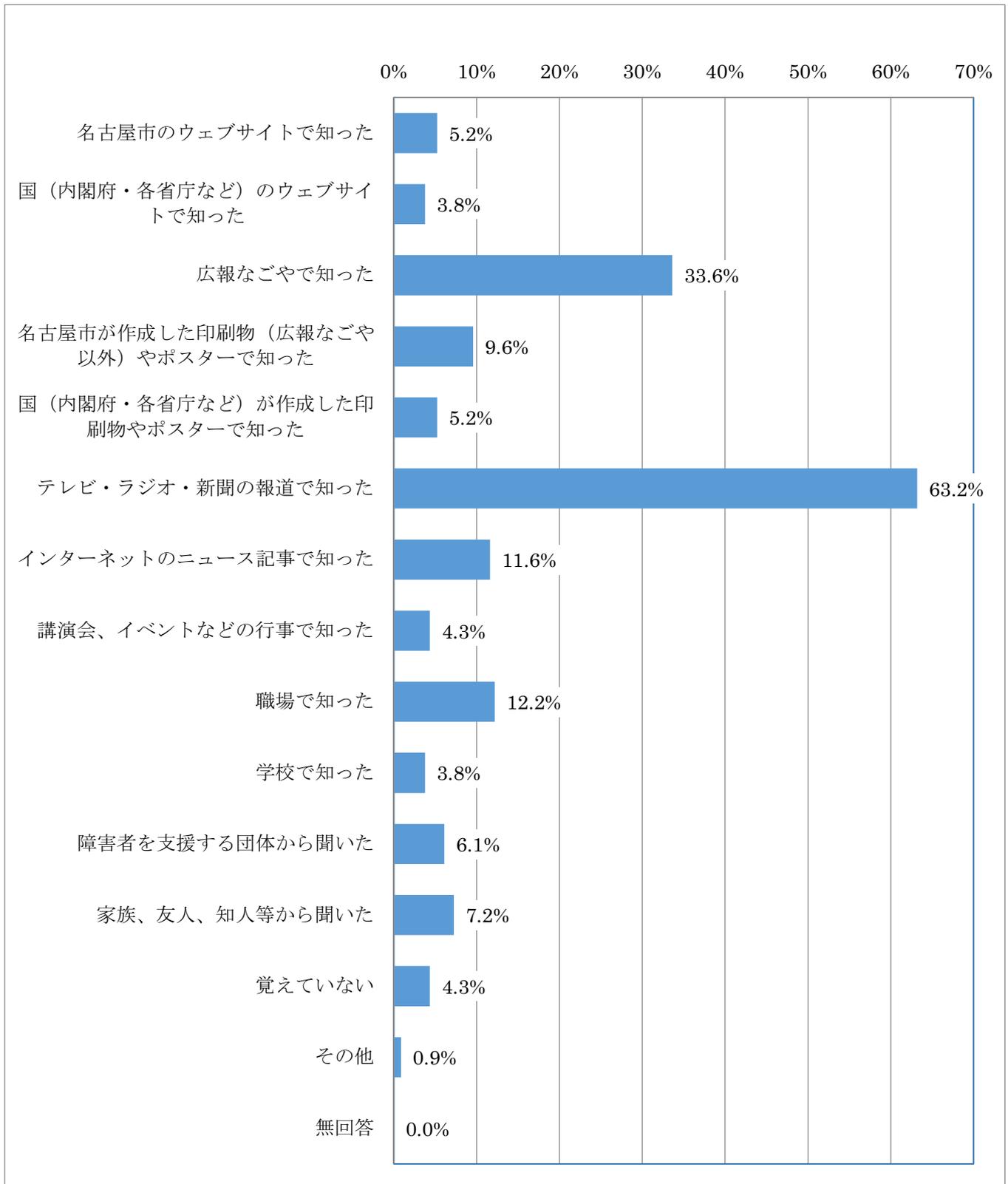
N=867



《問 22 で 1～2 と答えた方（名前と内容、または名前だけ知っていた方）におたずねします。》

問 23 あなたは、障害者差別解消法をどのようにして知りましたか。（〇はいくつでも）

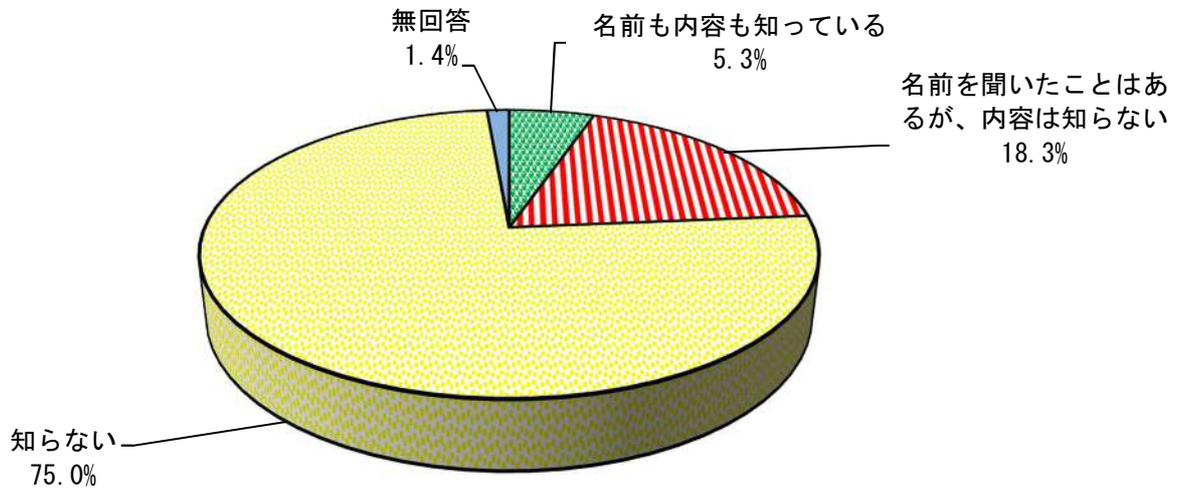
N = 345



《すべての方におたずねします。》

問 24 あなたは、平成 27 年 12 月に施行された愛知県障害者差別解消推進条例について、知っていますか。 (○は1つだけ)

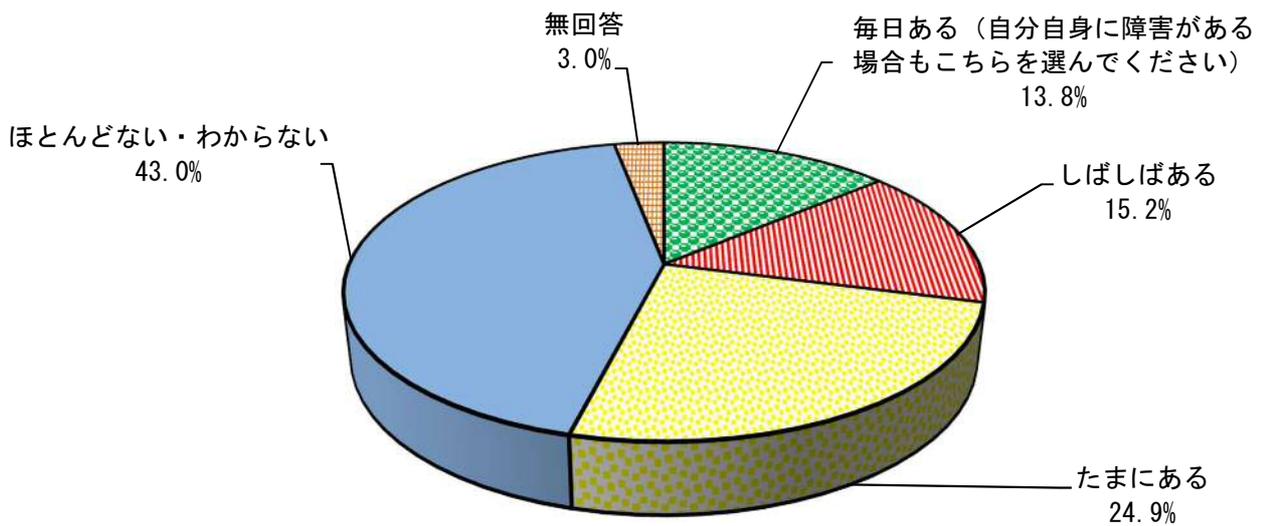
N = 867



問 25 あなたは、仕事や日常生活において、障害のある人に対応する機会は、ありますか。(例：自分自身、仕事の同僚や顧客、家族、友人、知人、近所の住民など)

(○は1つだけ)

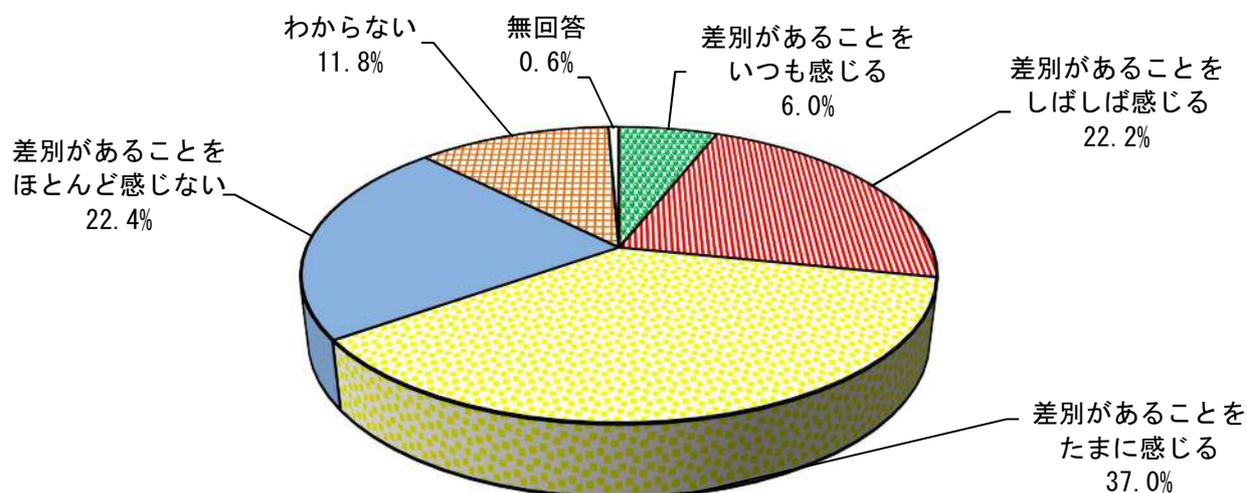
N = 867



《次の問 26・問 27 は問 25 で 1～3 と答えた方（障害のある人に対応する機会のある方）にお
たずねします。》

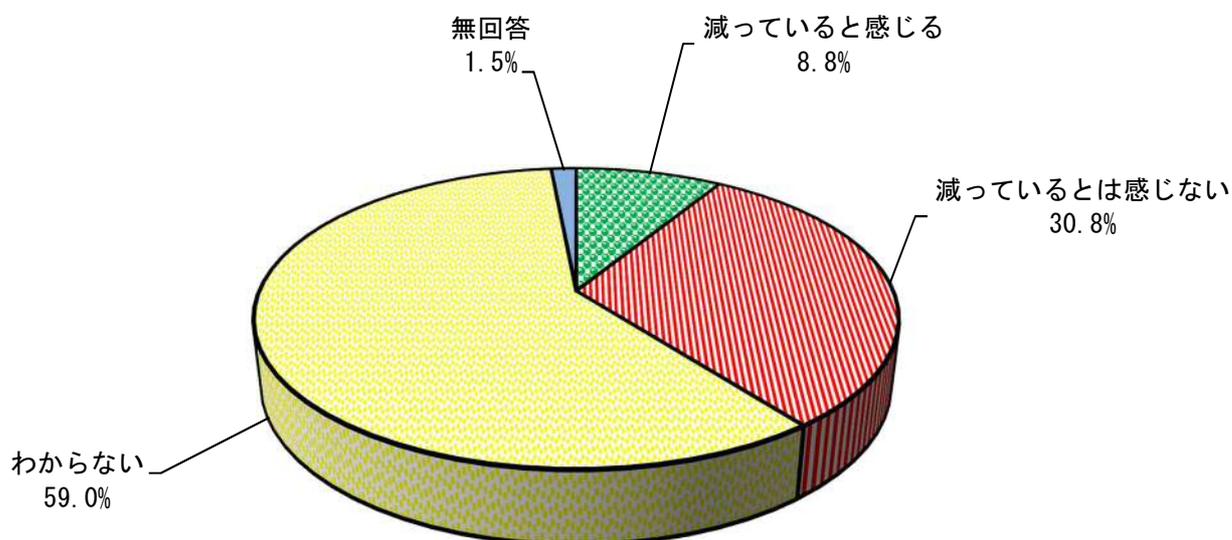
問 26 平成 28 年 4 月に障害者差別解消法が施行されましたが、現在の障害者差別の状況に
ついてどのように感じていますか。（○は 1 つだけ）

N = 468



問 27 平成 28 年 4 月に障害者差別解消法が施行されてから、障害者差別が減っていると感じ
ていますか。（○は 1 つだけ）

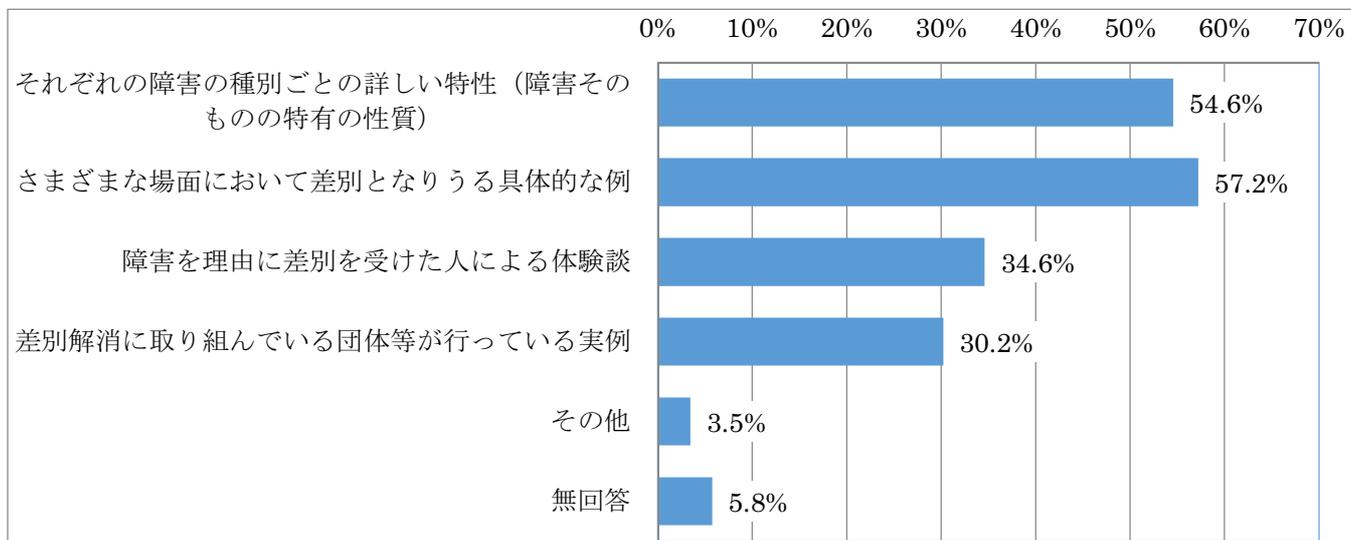
N = 468



《すべての方におたずねします。》

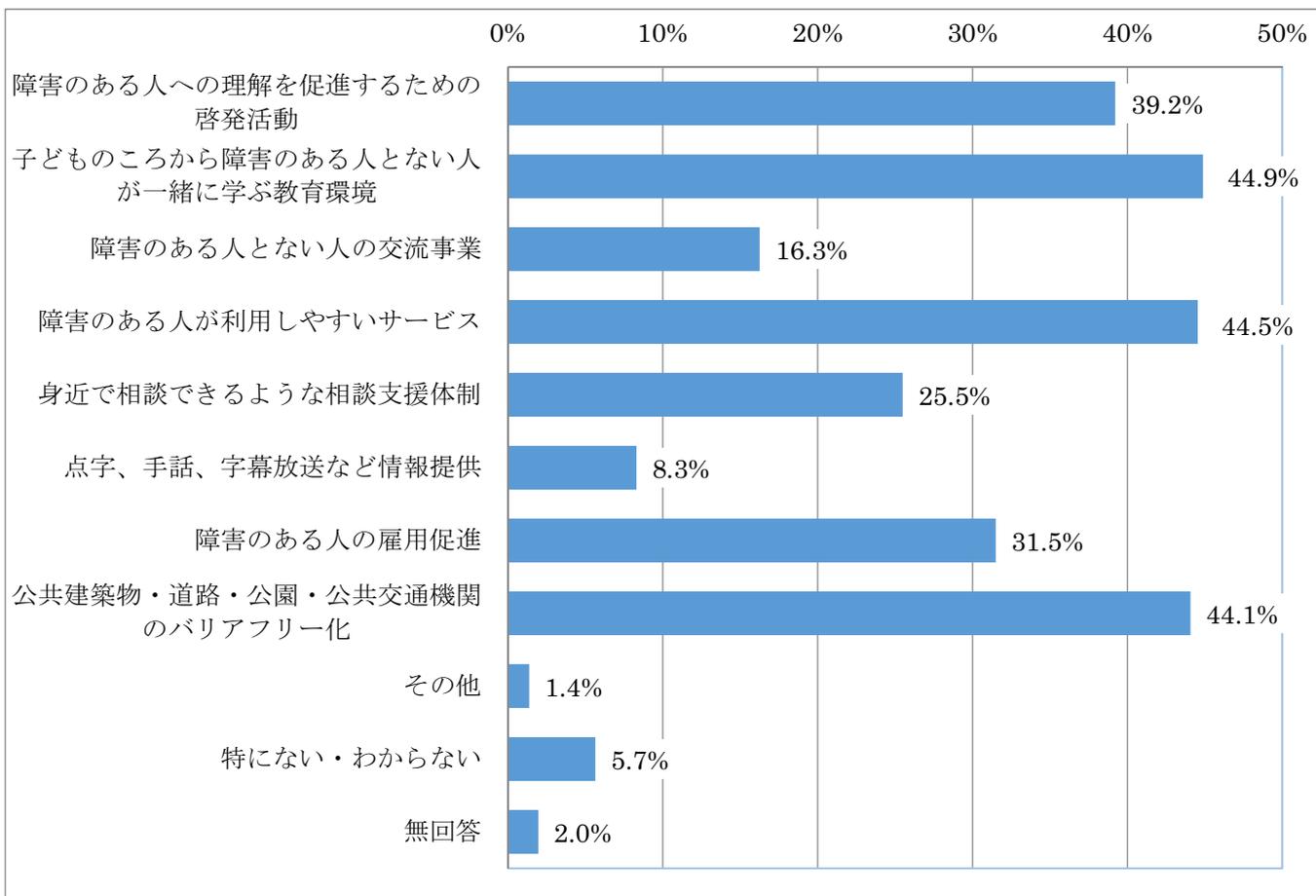
問 28 あなたは、誰もが障害のある人に適切な対応ができるようにするためには、どのような情報が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

N=867



問 29 あなたは、名古屋市が障害者差別解消の推進のために特に力をいれるべきと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

N=867



問 30 障害者差別の解消の推進についてご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

- 障害者差別解消法は浸透していない印象がある。自分も知るのは遅かった。浸透するように、力を入れるべきだと思う。
- 障害をもたない周囲の人々の、理解教育が大切だと思います。駅周辺の点字ブロックの上に自転車を置いている人なども全く罪悪感をもっていないように感じます。
- 高校生のときに軽度の障害をもつ子と同じクラスになったことで、理解が深まったと感じるため、一緒に生活する空間があることは良いと思うが、いじめ等にならないように注意が必要である。
- 障害者とひとくくりでいっても、色々な程度（種別）の方がいるので、障害者の方への直接的な支援はもちろんですが、支援事業やサービスを行っている事業会社へ、行政としてもっと支援して頂けるといいと思います。
- 知識が足りない部分が多く知らないうちに障害者を差別してしまっている気がする。多くの知識を学ぶ場所があるとよい。

ほか